レゾンデートル：存在意義

名誉教授
黒　澤　和　人

白鷗図書館には大変お世話になりました。またこの度は寄稿のご依頼を頂戴し有難うございました。３点お話させていただきます。

１つ：たくさん読む。文章が上手な先輩方にいろいろお話を伺うと、どなたも若いときに兎に角多くの本を読んだ記憶があるというのです。どうやら文庫でも新書でも、あるいはどんなに薄い本でもよいので、読後の達成感をたくさん味わうことが大切なようです。そうするとそれが一つの内なるものとなり文章を沸き立たせてくれるようになるらしいのです。

２つ：体系。韓流ドラマ『ホジュン　宮廷医官への道』の一場面を思い出します。若いホジュンが山奥の寺で薬草の勉強をしながらライ病（ハンセン病）患者たちの面倒を見ています。するとあるときサムジョク大師が彼に、もう十分だから科挙を受けに行けといいます。彼が「自分は未熟です、どうしてそう言われるのですか」と聞くと、大師は次のように答えます。「宮廷の内医院には古今の医書が無尽蔵にあり、薬剤倉庫には見たこともない珍奇なものから、遠い国の貴重なものまでありとあらゆる薬草がそろっており驚くほどだ。ホジュンよ、お前は精一杯頑張った。その経験に宮廷の内医院の「体系」が備わればいうことなしである。真の実力を備えた暁には、今は不治の病であるこのライ病に対しても特効薬を見出してくれることだろう。どうかわたしの夢を果たしておくれ」と…。その言葉を聞いたホジュンは次の朝、早速に都に向けて出発するのでした。

３つ：セレンディピティ。セレンディピティとは、何かを探しているときに、目的のものとは別の価値あるものに偶然出会ったり、発見したり、気付いたりすることを指します。歴史上の科学的発見の多くがこのタイプに属するともいわれています。インターネットのWeb検索にもこれと似たところがあるかもしれません。電子図書館としての利用も含め、図書館はまさにそれを「身」をもって体験できる場所だと思います。

生きるものにはすべて生きている意味があるように、ものにはすべてその存在意義があるはずです。図書館が大学の最重要機関の１つであるのも同様だと思います。白鷗図書館が多くの人に愛され活用され、大いに発展されんことを祈念いたします。

つぶやき

寄贈いただいた著書を紹介するスペースが少なくなってしまいました。掲載できなかった図書は次号に掲載予定です。

先生方にご紹介いただいたものの残念ながら所蔵がなく入手困難な図書は、幸い「国立国会図書館デジタルコレクション」、又はデータベース「Japan Knowledge Lib」に含まれています。無料で閲覧できますのでぜひご利用ください。

2024（令和６年）４月１日　発行
編　　集　図書館だより編集委員会
発　　行　白鷗大学総合図書館
〒323-8586　栃木県小山市駅東通り2-2-2
ホームページ　https://library.hakuoh.jp
印　　刷　第一印刷株式会社

図書館だより
HAKUOH
第62号 2024. 4
白　鷗　大　学

手にした一冊の余韻

名誉教授
池　村　好　道

今年の年初に、間近に迫る定年退職に備えて図書の整理に取り掛かろうとしたとき、何気なく「池村好道君 恵存」と記された一冊の訳書を手にした。M. D. ハウ編・鵜飼信成訳『ホームズ－ラスキ往復書簡集』（岩波現代選書）である。表現の自由の制限基準として「明白且つ現在の危険」を唱えたことで、また多くの反対意見を書いたことでも名を馳せたアメリカ連邦最高裁判事と、多元的国家論で、また労働党の支柱としても知られたイギリスの政治・法学者との間で交わされた1930年代という世界の激動期の書簡を訳出したものであるが、図書の整理そっちのけで久々にじっくり読み返すこととなってしまった。両者の学殖の深さ・幅の広さ、知性の閃きに改めて驚嘆したのは言うまでもない。一読されることを勧めたい。

ただ、私にとってより印象的だったのは、憲法・行政法学の碩学たる鵜飼先生の赤坂のご自宅へ足を運び、ご指導を受けた当時の瞬間、情景が次から次へと胸中に去来したことである。「友の喜びをともによろこび、悲しみをともにかなしむ人でありたい」という先生の信条や、「いずれ憲法を研究するのであれば、行政法から入るのがいいね」といったご教導など、枚挙に暇がない。因みに、私自身は、未だに行政法から抜け出せてはいないが。

そしてもう一つ、先生が翻訳を行われ、読者の便宜を考えてご自身で注釈を挿入されることが可能だったのは、そこに該博な知識・教養の裏付けがあったればこそなのだ、と今回もつくづく思い知らされたことが、強く心に残った。教養、特に歴史的素養の大切さを自覚しながらも、それを身に付けることにいつの間にか怠慢になっていたことが、恥ずかしくすらある。退職後は改心して、遅ればせながら努力することにしよう。

一度読んだ本を再び読み返すことの余韻を存分に味わった気分であったのである。

『ホームズ－ラスキ往復書簡集』
国立国会図書館デジタルコレクションとして
館内データベース専用 PC で閲覧できます。
小山市立中央図書館にも所蔵があります。

積読のすゝめ

名誉教授
奥　澤　信　行

本との付き合い方には多読や精読のような真っ当な読み方に加えて、購入した書物を読まずに「積んで置く」だけの洒落で積読（つんどく）というのがある。私にとって最初の積読は、フランスの地理学者ブラーシュ（Paul Vidal de la Blache 1845～1918）著『人文地理学原理』であった。近代地理学を築いた４人の地理学者のうちドイツの３人は、自然環境と人間生活との関わりについて、自然環境に対して人間は無力であるとの環境決定論を主張していた。これに対してブラーシュは、歴史から導き出される英知によって、自然環境と対峙できる環境可能論を提唱したと高１の地理で学んだ。19世紀以降の産業発展を考慮すれば、自然環境の中でも地形に関しては、人による改変は可能なのではと考えていたので、この環境可能論に共感して『人文地理学原理』を手にしたい衝動に駆られた。しかし当時はネットなどなく、その本の入手方法を知る術もなかった。ところが高２の夏休み明け、学校帰りに毎日寄っていた書店に岩波文庫の新刊案内が張り出されており、その中の『人文地理学原理 上・下巻』に目が留まったのである。ブラーシュを知ってから約１年、渇望していたこの本の上下巻をその場で注文した。当時の岩波文庫は価格が★の数で示されており、★一つが50円で上下巻とも★３つだったので、300円で知的好奇心を満たせたのである。

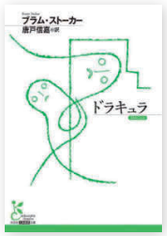
さて喜び勇んでページをめくったが、内容を全く理解できない。そのまま積読状態になってしまったのである。時が過ぎて大学１年の時、教授がこの本に言及したので再読したが、半分読み進めるのがやっとであった。そして上下巻読み通したのは大学院の１年の時で、本の購入から７年が経過していたのである。しかし地理学の学徒にとっては必読書である『人文地理学原理』を読了できた満足感は今でも覚えている。購入直後は難解で読めなくても、いずれは理解できるのであれば、積読も有効な本の読み方なのである。

◆寄贈書案内

◉唐戸信嘉先生（教育学部准教授）より

書名：ゴシックの解剖－暗黒の美学
著者：唐戸信嘉
発行：2020年12月　青土社

人々を惹きつけてやまない一大美学の超自然的な悪の魅力を解き明かしています。



書名：ドラキュラ
著者：ブラム・ストーカー著
　　唐戸信嘉訳
発行：2023年10月　光文社

吸血鬼文学の代名詞たる不朽の名作を読みやすい新訳にしています。

図書と図書館を巡る断片的な思い出

元法学部教授
栗　田　　誠

小学校の図書室　岐阜県の片田舎の小学校には教室の半分もない狭い図書室があった。それほど多くない児童書が分類されることもなく雑然と並んでいたが、近所の同級生の少し年の離れたお兄さんから借りて読む書籍や雑誌の方が面白かった。

駅前書店での立ち読み　高校へはバス通学をしていたが（随分前に廃止されている）、帰宅に都合のよい時間帯に便がなく、いつも駅前の書店（これも既になくなっている）で新刊書を立ち読みしていた。そこで見つけた『新日鉄誕生す―独禁政策と巨大企業合併の記録』（毎日新聞社・1969年）がその後の私の進路に大きな影響を及ぼした。

大学図書館　法学部生時代の大学図書館には、授業の合間の自習場所としての利用と当時関心を持っていた江戸時代の旅行記『真澄遊覧記』くらいしか思い出はない。昨今の明るく開放的な図書館からは想像もできないくらい薄暗く、黴臭かったことだけは忘れようがない。

国会図書館　大学卒業後に勤務した公正取引委員会の図書館は国会図書館の支部図書館であり（図書館だより50号掲載の鈴木孝之名誉教授「図書館は一生の友」参照）、相互貸出簿を持参すれば国会図書館の収蔵図書を借り出すことができた。一時期、秘密保持を要する事案の文献調査のために頻繁に利用させていただいた。

「経済法」の配架位置　図書分類では「32 法律」に「328 諸法」という区分があり、「経済法」（独占禁止法）もここに分類されてもよさそうであるが、実際には「33 経済」の「335 企業、経営」に分類されている。本学総合図書館でも、法律書の書架とは少し離れた位置に配架されており、「経済法」受講者には注意を促してきた。

電子ジャーナル　前任校で一時期、法学資料室の予算担当を務めたが、電子ジャーナルや法律データベースの利用料金の高騰もあり、紙媒体の購読雑誌を削減せざるを得なくなった。内部調整が難航し、一部の教員の不興を買う羽目になった苦い思い出である。

「読書国民」の衰滅？　永嶺重敏『読書国民の誕生　近代日本の活字メディアと読書文化』（講談社学術文庫版・2023年）は、明治期に国民国家の形成と並行して「読書国民」が誕生する過程を活写している。近時の「読書離れ」を憂うよりは、「ネット市民」の誕生を慶ぶべきか。

書店通い　自宅から徒歩圏内に割と大きな書店があり、散歩コースに組み込んで週に２回は通っている。新刊書のチェックと雑誌の立ち読みが目的であるが、これからはその頻度が増すであろう。買うか、立ち読みで済ませるか、それが問題だ！

◉ジョイス津野田幸子先生（元経営学部教授）より

書名：Forever PLAY BALL!
著者：Tsunoda Joyce Sachikoほか
発行：2021年　LEGACY ISLE

ジョイス先生の父親である、阪神の名投手西村幸生さんの生涯が描かれています。

◉石田春代先生（教育学部非常勤講師）より

書名：気になる子の偏食
著者：西村実穂／水野智美編著
　　木田春代ほか執筆
発行：2014年７月　チャイルド社

個々の子どもによって異なる偏食の原因を探り、具体的な対応法を紹介しています。